診療室

獣医師の道半ばにて思うこと

青木敏宏[†]（あおぞら動物病院院長・栃木県獣医師会）

1995年3月に地元栃木市都賀町に小動物病院を開業し，今年20年目を迎える．当時は独身であったが，その後，結婚し，3人の子にも恵まれた．長いようでアッという間の19年間であった．スタッフも開設当初1名であったが，現在は獣医師2名，看護師4名，トリマー2名，受付1名の大所帯となった．一方で職場環境，報酬の支払い等雇用者としての責任の重さも感じている．

さて，当院はこれまで主に犬や猫を対象に小動物診療に従事してきたが，一般診療の他，毎月専門医を招いて，皮膚科，眼科，循環器科の二次診療を行っている．私自身も他院からの紹介で整形外科分野の診断及び手術を担当している．

最近，小動物医療において一般診療（一次診療のみを行う動物病院）と専門診療を中心とする動物病院の2極化が進んでいることを実感している．そのような中，近年，動物病院が過密化状態となっている地域では，閉院する病院もあるという．一方で多数の獣医師を雇用し，年々規模を拡大する病院もある．

また，飼い主の考え方も自分が勤務医であった25年前とは随分様変わりしている．インターネットで病院を選択したり，病気の原因を詳細に調べたり，高度医療を希望するといった飼い主が増えている．本院にも毎月，専門医を頼って遠方から来院される飼い主もいる．様々な分野において専門的な知識・技術を有する獣医師が求められる時代なのか，本院へ整形外科疾患で来院される飼い主も年々増加している．

今，このような状況の中で，日々の診療において感じていることがある．

まず，一般診療の大切さである．いくら専門分野の知識や技術に秀でていても，優秀なゼネラリストには敵わない．毎日の診療の積み重ねが重要で，問診や視診，聴診，触診を怠らず，飼い主の顔を見て，相手の心情を察する姿勢で診察する．高度な医療も結局は，基本の積み重ねによるものである．日々の診療がいかに大切かを知ることこそ，自身の診療レベルの向上に繋がる．

次に，この小動物臨床という分野は経験の学問ということである．現在，小動物臨床に携わる獣医師向けの専門誌や月刊誌が多数発行されている．自身の勤務医時代と比べれば10倍，あるいはそれ以上はあろうか．さらに，日祝日や平日の深夜まで，各専門分野のセミナーが日本各地で開催されている．小動物臨床に携わる獣医師にとっては，学びたい分野を自分の都合に合わせて受講することができ，便利なことこの上ない．しかしながら，小動物臨床は経験の学問なのである．いくら知識が豊富でもその症例に遭遇し，苦労しながら診断，治療を行ってきた経験には敵わない．何度も失敗し，苦い思いを経験して，開業して10年目にようやく，このことを理解した．今は，現場での症例を時々読む数冊の専門誌やセミナーでの知識と照らし合わせ，日々の診療を確認している．

さらに，家族という存在の大切さについてである．子供のころの夢が叶って晴れて獣医師となったが，やはりストレスは溜まる．自分の勤務医時代の院長は「この仕事を長く続けるためには，ストレスを解消する術をもつことだ」とよく言っていた．私は毎日のストレスを浄化し，緩和してくれるのは家族だと感じている．家族が支えとなり，頑張ることができる．このように考えられるようになったのは，ここ1，2年である．

また，余談になるが，自分が整形外科の分野に力を入れ，多くの症例を好んで手がけるようになったのは，その治療成績が飼い主にも理解できるからである．いくら論文を読み，高価な医薬品や高度な獣医療機器を用いても，手術をして歩けるようにならなければ意味がない．

青木敏宏

—略　歴—

1987年　日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）卒業
1989年　同大学院修士課程卒業
同　年　動物病院（千葉県）勤務
1993年　オハイオ州立大学小動物外科研修医
1994年　動物病院（茨城県）にて勤務
1995年　あおぞら動物病院開院

† 連絡責任者：青木敏宏（あおぞら動物病院）
〒328-0012　栃木市平柳町1-42-1　☎0282-20-2003　FAX 0282-20-2004　E-mail : kyokusin@cc9.ne.jp

外科は結果がすべてなのである．もちろん成果を得られないこともある．その際は，自分が整形外科のイロハを学んだ先輩に指導を仰ぐことになる．叱咤を受けながら時には手術をしていただく．50歳を過ぎて指導を受ける先輩をもつ私は幸せ者である．

以上，日々の診療と小動物臨床における獣医師に関する自身の考えを取り留めもなく綴ってきた．開業して20年，私はこの節目に獣医師という職業の社会評価に繋がるよう，一層日々の診療に取り組みたいと考えている．